

ごとう通信

第94号

平成20年10月1日

九月の終わりから一気に寒くなり、「一雨ごとに」などと悠長な話もしていられないうちに冬モードになってしまいましたね。僕は夏、半袖ポロシャツを着ることが多いのですが、寒くなった時にまったく対応できません。今年は季節の変わり目に雨が多かったので合羽を上着代わりに寒さをしのぎました。いよいよ重い腰を上げて衣替えをしなければ…

さて、先月、出張で佐賀に行ってきました。意外と思われるかもしれませんが福岡空港から一時間弱。結構近いんですよ。僕は父親が福岡の飯塚、母親が長崎の佐世保出身です。ですから小さいとき、福岡から長崎ま

での電車移動時には佐賀も通っていたんです。

佐賀駅を降りると目の前には「西友」の大きな文字。別方向を向くと「イオン」のネオンが光っ

ていました。ああ、どこに来ても同じなんだなあと思いながら目的地に向かいました。もちろん佐賀は駅前だけではありませんが、「佐賀に来た！」という雰囲気はまったくしません。

地方の不景気はニュースで耳にしますが、地方が都会のようになる必要はないと思います。地方が地方らしさを出すことで魅力的な街になるのではないかと思うのですが…なかなか難しい問題です。唯一の佐賀らしさといえは、駅前の本屋に「佐賀のがば



いばあちゃん」の等身大パネルが立っていたことくらいですか。

診療とコミュニケーション

ある老人ホームへ訪問診療に行っていたとき、介護職員が「先生、この方の入れ歯を見てください。」と言って入居されている男性を連れてきました。「はい、はい」などと返事をし、診療しようとする、その介護職員は忙しそうに去っていったのです。えっ！と思いつつながら「痛いところはありませんか？」とたずねると「ありません」。「食べにくいですか？」「ありません」。「入れ歯ですか？」「ありません」と、まったくうちが明きません。認知症の方だったのです。やむを得ず再び職員のところへ行って何